

人と人の思いをつなげて 地域資源を活かした子育てサロンを創設

浦安市は「子育てしやすい街」として人気が高く、子育て世帯の転入率が高い一方で、親子が孤立しやすいという課題も抱えています。浦安市社会福祉協議会（以下、浦安市社協）は育児不安を解消するために、親子が交流できる「子育てサロン」を市内各地で開催していますが、今回ご紹介する「うらちゃんサロン北栄」は、地域資源を活かし、母子保健推進員と協力しながら運営しています。

施設やサービスが整い 子育て世帯の転入率が高い

東京都に隣接する浦安市は少子化対策に積極的で、結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のないサポートを展開しています。保育園などの施設やサービスも整っていることから、「子育てしやすい街」とされ、子育て世帯の転入率が高くなっていますが、その一方で市内の全世帯の95 %以上が核家族で、子育て世帯の多くが身近に支援者がいないという課題があります。



浦安市社協　田中美緒さん

浦安市社協のうち９支部社協が15 カ所で子育てサロンを実施しているほか、浦安市社協の直轄の子育てサロンが４か所で実施されています。

今回、ご紹介するのは、市社協が母子保健推進員の有志の方々と協力して、民営保育園の一室を借りて運営している「うらちゃんサロン北栄」。地域資源を有効に活用した事例です。

母子保健推進員と保育園を 市社協がつなげてサロンを設置

北栄地区はもともと子育て拠点となる施設やサロンがないことから、地域の親子から「子育てサロンが欲しい」という声が上がっていました。

そんななか、市の子育て支援事業である「ほのぼのタイム」（妊娠中と生後６か月までのサロン）の管轄が移管することになり、それまで運営に携わっていた母子保健推進員のみなさんが離れることになったため、「子育てサロンを自主的に開催したい」という母子保健推進員の声が市社協にも届いてきました。母子保健推進員は、生後２～３カ月の乳児がいる家庭への全戸訪問活動を担っています



サロンスタッフのみなさん



うらちゃんサロン北栄

が、訪問した家庭とその後もつながりたいと希望していたのです。

一方、北栄地区のふたば保育園を運営している社会福祉法人芳雄会では独自に子育てサロンの実施を検討していました。このような流れからサロンの実施について相談したところ、「地域貢献のために、子育てサロンの会場として使ってほしい」という申し出がありました。

そこで市社協は、平成27 年、両者の思いをつなぐ形で、「うらちゃんサロン北栄」を設置し運営をスタートしました。

恵まれた環境の中で 仲間づくりや悩み相談

「うらちゃんサロン北栄」は月１回、ふたば保育園の多目的室で10 時から12 時まで開催されます。広報活動については市社協がチラシ作成や、市の子育て情報サイトへの掲載などを担当し、母子保健推進員は訪問活動の際にサロンの情報を提供します。「母子保健推進員がサロンのスタッフを務めるということで、お母さんたちの安心・信頼が得られ、参加率の高さにつながっています」と、浦安市社協の田中美緒さんが指摘する通り、立ち上げ当初から多くの参加者が集まりました。

取材当日は13 組の親子が参加。毎回、サロンスタッフとして母子保健推進員が６、７名と市社協職員1、２名が参加します。さらに市の保健師やふたば保育園の保育士、看護師、司書などが協力しています。

部屋を囲むように設置された棚には、木製や布製の温かみが感じられるおもちゃがたくさん並んでいました。授乳室やおむつ替えスペース、子ども用便座のあるトイレなど、保育園ならではの恵まれた環境です。

「毎月、必ず来ています。実家が遠方で市内に知り合いもいなかったのですが、このサロンで仲間ができました」という常連の親子もいれば「今日、初めてきました」という親子もいました。

初めて参加した親子が孤立しないように、スタッフがさりげなく他の参加者との間を取り持ちます。またスタッフが子どもの見守りをしている間、母親は気兼ねなく悩みごとの相談や、情報交換を行っていました。



堀江つどいの広場（助産師相談）



うらちゃんサロン猫実

専門職から直接 学ぶことができる機会

そのうち、司書の方の読み聞かせや手遊びが始まりました。また保育士が年長組の園児たちと一緒にサロンに顔を出して、参加者の前で歌を披露しました。こうして毎回、園児の発表会が組まれており、ダンスやけん玉、あやとりなどを見せてくれることもあります。

保育園で実施するメリットについて、田中さんに伺いました。「ゆくゆくは保育園に入ることを希望されている方が多いなか、保育園選びの参考にもなると思います。また、園児たちとの交流を通して年齢ごとに子どもがどのように成長していくかを見ることができます」。

さらに専門職による学びを得られる機会にもなっていると指摘。たとえば、サロン参加者を対象にした「給食（離乳食・幼児食）試食体験会」を、サロンとは別の日時に保育園で開催しています。管理栄養士がマンツーマンで離乳食の進め方について、試食しながら相談にのる体験会ですが、「参考になる」と人気が高く、抽選になることもあるといいます。

常に利用者の声に耳を傾け ニーズに応えていきたい

市社協で実施している４カ所の子育てサロンは立ち上げの経緯も、運営形態も異なります。「年２回実施している参加者へのアンケート結果などを参考にしながら、ニーズに応えられるように、４か所の地域特性に合わせて運営しています」と田中さん。

子育てサロンを各地で開催しているなか「シングルマザー同士が集まってお話しできる場所が欲しい」という声があがったことを受け、浦安市社協では「シングルマザーサロン」をスタートしました。

また父親の育児参加を推進するため「パパとベビーのサロン」も実施しています。内容は育児相談やふれあい遊びなどですが、父親同士が仲良くなって、家族ぐるみでキャンプに行ったりするケースもあるそうです。

そのほか市社協の子育て支援事業としては、市からの受託事業である「うらやすファミリー・サポート・センター」と、「児童育成クラブ」（２カ所）を実施。平成31 年度からは、児童育成クラブに通っていない子を対象とした「放課後異年齢児交流促進事業」と一体的に運営し、より充実したサービスとして提供することが予定されています。

最後に、子育てサロン事業の今後について田中さんに伺いました。「利用者のニーズが短期間で移り変わる時代になっているので、常に利用者の声に耳を傾けながら、新しい企画にも積極的に取り組んでいきたい。また、世代間交流が生まれる仕掛けも考えていきたいと思っています」



浦安市社協のみなさん

※浦安市人口：168,852人　65歳以上人口：28,434人　高齢化率：16.8%（平成30年4月1日現在）　〔平成31年1月取材〕